

大学生活を振り返って

兵庫県立大学理学部生命科学科 河村味奈

大学生活は、「人生の夏休み」とも題されるほど、自分に自由な時間があります。私はこの四年間を振り返った時に、あんなことしてみたかったな、しとけばよかったな、と思うことがあります。特に大学1・2回生のうちに。もし大学1・2回生でこの文書を読んでもくれた方がいるなら、ぜひ今のうちに色んなことにチャレンジしてほしいです。

1回生のうちは、工学キャンパスへの通学やバイトで時間はいっぱいでした。大学では気の合う友達もでき、テスト前はお互いに教えあったり、それが終わったら打ち上げをしたり、バイト代でもあるので遊びに遠出したり…と、ある意味大学生らしい一年だったかもしれません。たまに同じ高校出身の子同士で集まると、やはり大学によってそれぞれ雰囲気があり、他大学ではどんな感じなのか、話を聞くのも新鮮で楽しかったです。2回生になると、理学キャンパスに移り、一人暮らしを経験しました。実家で両親に何気なくやってもらっていた掃除・洗濯・料理など、全部自分でやるのは結構大変なのだと実感しました。と同時に、今までそれをやってくれていた両親には感謝の気持ちが芽生えました。講義は専門的なものが増えてきて、何研志望？と友達との間でも話をするようになっていました。しかし私が思うに、1・2回生の頃の講義は「点」で理解していたような感覚でした。ある講義とまた別の講義をつなげて考えられていなくて、その講義の内容を講義ごとに単発で理解している、という感じです。その「点」と「点」がつながって「線」として講義の内容をとらえられるようになってきたのが3回生です。2回生までの講義で得た知識と、新しく学ぶ内容、また他分野の講義との内容のつながりが少し見えるようになって、あの講義で言っていたことはこういうことだったのか！と別の講義を受けている時に理解できたこともありました。単発で理解することももちろん大事で、その先、さらに包括的に講義の内容をとらえることで、理解が深まるようになりました。そして4回生。私の大学生活の中で最も忙しく、かつ充実した一年でした。研究テーマに沿って、より深くより専門的知識を学び、実験に臨みました。この一年は特に時間が経つのが早く、あれ？もう一日終わった…という毎日でした。そんなこんなで今まで自分がやってきたことをまとめ、卒研発表を終えた時は本当に達成感がありました。ここまで頑張ってくれたのも、家族・友人・先生方…私と関わってくれた方々の支えがあってこそです。この場をかりてお礼申し上げます。

私は努力型なので、何をするにも時間がかかりました。お世辞でも天才型ではありません。だからこそ、目の前の課題にコツコツと取り組み、準備も怠らないようにしてきました。それがこのような結果に現われたことは嬉しく思います。ただ、私は努力がすべて報われるわけではないと思っています。頑張っても結果がついてこない時もあります。私の院に進学し修士2年間を過ごすにあたっての目標は、「ただ頑張るだけではなく、どうやっ

たら少しでも効率よく物事を進められて、いい意味で楽をして結果にたどり着けるか」を考え、実行することです。修士は学部の時よりタイムスケジュールがきつとシビアになるでしょう。限られた時間の中でどうやって良いものにしていくか。どうやって完成度を高めるか。大学4年間で学んできたこと、習得したことからさらにステップアップした修士生活を送りたいです。